園だより９月

主よ、あなたの道をわたしに示し、あなたに従う道を教えてください。
詩編 25 編 4 節

猛暑の続いた夏休み、如何お過ごしでしたでしょうか。
子どもたちはきっとこの暑さにも負けず、大活動し、夏を満喫した日々であったことと思います。

私たち保育者も何年ぶりかで対面での夏の研修会に参加する機会が与えられ、２学期からの子どもたちとのより充実した日々に向けて有意義なときを過ごしました。今年度のキリスト教保育連盟関東部会の研修では、玉川大学教授　大豆生田先生と聖心女子大学教授　河邉先生から多くの学びを頂戴しました。
大豆生田先生には「先生たち、ワクワクする保育をしていますか？」と問われました。そして、「子どもたちが得られる経験の豊かさと、それを支える保育の実践や人的・物的な環境など、多層的で多彩な要素によって成り立つ質の高い保育のために、まず保育者が心から子どもたちとワクワクする日々を過ごすこと」の大切さを。
河邉先生からは、「遊びは、子どもが興味関心をもった身近な環境に関わることによって生み出されるものであり、遊び手の自発性に支えられて展開する。主体的な自発性は面白いとか楽しいという「快」の感情と分かちがたく、それが原動力となって子どもは遊びがより面白くなるように モノやコトや人に関わる。対話的な関わりが深まることで遊びの面白さは増し、子どもの興味関心はさらに高まるという循環を生み、深い充実感と、結果として汎用可能な知識や技能をもたらす。その為に私たち保育者は学び手である子どもが、何を探索しようとしていて（遊び課題）、何に成功し（経験の読み取り）、さらに何を必要としているのかを理解し（次に必要な体験の読み取り）、援助の可能性がどこにあるのかを見極めて、必要ならば最良の環境を提案することが役割である」ということを。
この様に、研修は保育に対する再確認、また更なる視野の広がりへの道筋を得られたときとなりました。

元気な子どもたちを迎えた夏期保育が終了し、２学期がスタートいたします。子どもたちのより豊かな成長のため、共にワクワクした日々を過ごして参りたいと願います。様々なお支えをよろしくお願い申し上げます。

園長　駿河　幸子